

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	財務会計 1 (Financial Accounting 1)					担当教員	番 雪氷 (キョウ セツヒョウ)	
2020-23 年度 入学者 (20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL
	2037-3-33-121	専門科目	選択	2 単位	3 年次	前期		
2024-25 年度 入学者 (24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL
	2437-3-33-060	専門科目	選択	2 単位	3 年次	前期		

① 授業のねらい・概要
財務会計の目的は、企業が株主や債権者などの外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告することである。企業における会計処理と財務諸表の作成・公開にあたって準拠すべき会計基準と基準を支える会計理論が存在する。本講義は、会計基準、会計基礎理論と発展理論を踏まえ、財務会計におけるアウトラインを把握することを目標とする。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力/職業人として通用する能力
③ 授業の進め方・指示事項
各回の講義前に、指定する範囲について教科書を必ず一読する。授業中講義ノートを取る。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
簿記・会計関連科目を履修することが望ましい。「財務会計 2」と共に履修することを推奨する。
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。
藤井秀樹（2025）『入門財務会計 第5版』中央経済社
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
特になし
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
財務会計は「企業経営を総合的、包括的かつ統一的にとらえる唯一のツール」だと言われる。専門知識の勉強は無味乾燥なモノだが、理解して活用できるようになると、その達成感と喜びも大きなモノである。山登りはつらいが、山頂で素敵な風景が見られるという気持ちで取り込んでいきましょう。
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
（i）会計の機能と GAAP 形成上の二つのアプローチについて説明することができる。 （ii）会計の基礎概念について例を挙げながら説明することができる。 （iii）各財務諸表の関連性と利益計算の考え方について解釈することができる。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 会計の機能と GAAP 形成上の二つのアプローチ	会計の機能と会計ルールについて、例を挙げながら、その概要と形成プロセスを詳しく解釈できる。	会計の機能と GAAP 形成上の二つのアプローチについて説明することができる。	会計の機能 GAAP の形成プロセスについて論述することができる。	会計の機能に関連する用語の箇条書きはできるが、詳しく説明することができない。	会計の機能と GAAP 形成の二つのアプローチについて、関連する用語の箇条書きができない。
(ii) 会計の基礎概念	具体的な例を挙げながら、会計の各基礎概念の用語につちえ、解釈した上考察することができる。	会計の基礎概念について例を挙げながら説明することができる。	会計の各基礎概念の用語について、詳しく解釈することができる。	会計公準、企業会計原則及び概念フレームワークについて箇条書きし、説明することができる。	会計公準、企業会計原則及び概念フレームワークについて説明することができない。
(iii) 各財務諸表の関連性と利益計算の考え方	静態論から動態論への変遷を社会背景と結びつき、利益計算の考え方の変化について説明することができる。	各財務諸表の関連性と利益計算を結びつき、解釈することができる。	各財務諸表の関係を説明できるし、利益計算の考え方を解釈することができる。	各財務諸表の関係を説明できるし、利益計算の2つのモデルの概要を説明できる。	各財務諸表の関連性と利益計算の考え方の2つのモデルを挙げられない。

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%	40%					100%
(i) 会計の機能と 会計ルール	20%	10%					30%
(ii) 会計の基礎概念	20%	20%					40%
(iii) 各財務諸表の関連性と利益計算の考え方	20%	10%					30%
フィードバックの方法	毎回、講義のポイントをまとめるプリントを配布し、書き込み欄と穴埋め箇所を設けることにより、学習した内容を再確認し知識を深める。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	ガイダンス・会計の歴史・財務会計とは	配布した資料を復習すること。	120 分
2	第1章 会計とは何か ―取引・記録・報告―	教科書 pp. 1～12 を読んでくること。 プリントを復習すること。	120 分
3	第2章 会計の機能① ・説明機能・利害調整機能・情報提供機能	教科書 pp. 13～21 を読んでくること。プリントを 復習すること。	120 分
4	第2章 会計の機能② ・意志決定支援機能・契約支援機能	教科書 pp. 22～32 を読んでくること。プリントを 復習すること。	120 分
5	第3章 会計のルール① 社会的ルールの必要性	教科書 pp. 33～39 を読んでくること。プリントを 復習すること。	120 分
6	第3章 会計のルール② GAAP と 2 つのアプローチ	教科書 pp. 40～51 を読んでくること。プリントを 復習すること。	120 分
7	第4章 会計の制度性	教科書 pp. 52～61 を読んでくること。プリントを 復習すること。	120 分
8	第5章 会計の基礎概念① 会計公準	教科書 pp. 62～72 を読んでくること。プリントを 復習すること。	120 分
9	第5章 会計の基礎概念② 企業会計原則	教科書 pp. 73～83 を読んでくること。プリントを 復習すること。	120 分
10	第5章 会計の基礎概念③ 概念フレームワーク	教科書 pp. 84～95 を読んでくること。プリントを 復習すること。	120 分
11	第6章 会計の仕組み 財務諸表の関係性	教科書 pp. 96～105 を読んでくること。プリント を復習すること。	120 分
12	第7章 利益計算の考え方① 財産法と損益法	教科書 pp. 106～115 を読んでくること。プリント を復習すること。	120 分
13	第7章 利益計算の考え方② 資本維持と利益計算	教科書 pp. 116～123 を読んでくること。プリント を復習すること。	120 分
14	第7章 利益計算の考え方③ 静態論と動態論	教科書 pp. 124～130 を読んでくること。プリント を復習すること。	120 分
15	まとめ	配布した資料を復習する。	120 分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。授業の内容を基に、毎回配布するプリントに内容のまとめ（空欄補助など）を行い、復習し、学習内容をフィードバックする。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性